

20210405 第145回箕面探索同好会 黒川桜の森 記録

- 日時：2021年4月5日（月）9:30（妙見口駅）～16:30（妙見口駅） ・天候：曇り時々晴れ
- コース：妙見口駅⇒高代寺⇒黒川公民館⇒黒川桜の森⇒出野三角点(H366m)⇒ありなしの道⇒野間の大けやき⇒稲地BS⇒（バス減便のため徒歩）⇒妙見口駅 歩行距離：12km
- 参加者：30名（男性：12名、女性：18名）、内初参加2名（内田さん、山内さん）
- 概要：
 - 参加者数は30名で、「赤坂山」、「交野山・国見山」と同じで過去最多参加者数の3度目になった。
 - 今年は桜の開花が特に早く、このあたりも見頃を過ぎており、3月末頃が最適だったようだ。
（シンボルの「微笑み桜」の満開日は、以前は4/19、数年前は4/12、去年は4/5だった）
 - 稲地バス停から妙見口駅に帰るバスは、予定していた3時台の便が4月1日から減便廃止されていたため、この間約5km・1時間余りの歩きを余儀なくされた。みなさま+5kmたいへんお疲れさまでした。
 - 反省：ダイヤ変更の行われる年度変わりの時期は、直前のダイヤ確認が必要（特に田舎のバス）。
 - 以下の写真は、松川さん、福島さん、田中さん、石川浩さんなどの撮影によるものです。



妙見口駅前に過去最多タイの30名が集合



4年ぶりに参加の久保さんと初参加の山内さん



高代寺への登り



カナクギノキの大木の前で一休み



ツキノワグマの「とよ」は元気に顔見せ



黒川への下りは悪路急坂で厳しい



旧黒川小学校「ラクト」手前で何やら観察



黒川公民館（旧黒川小学校校舎）前にて



台場クヌギ



出野三角点（H366m）にて休憩



野間の大ケヤキ



萱葺きの稲地バス停（バスは来ない）



日本一の里山

昔話「桃太郎」の有名なフレーズ「おじいさんは山へ柴刈りに」の山が、まさしく『里山（里山林）』です。

里山とは、柴刈りなど人の手が入ることで成り立っている林であり、そこでは人の生活と自然が調和しています。

里山林を構成しているクヌギやコナラは萌芽力が強く、概ね 10 ～ 20 年周期で伐採され、薪炭やシイタケ栽培の原木として利用されており、持続可能な循環型の植生を形成しています。

特に、ここ吉川から黒川（川西市）一帯の里山は、かつて池田炭（菊炭）という茶道にも使われる高級炭の産地であったことや、多くの生物が生息し貴重な生物多様性が見られること、また、見事なパッチワーク景観が残ることなどから、『日本一の里山』とも言われています。



池田炭（菊炭）



イラスト提供：服部 保

兵庫県立大学名誉教授 服部 保著「ふしぎの博物誌 日本一の里山」より抜粋
「ここにはゴジエを優占種とした照葉樹林が保全されている。クヌギ林が育成される以前は、照葉樹林が広がっていたという事実を示すものとして大変貴重である。神社から離れて道路から写真を撮ると、里山のクヌギ林と照葉樹林がセットで撮れて楽しい」

平成十年三月

野間の大けやき（大正5年撮影）

国指定天然記念物

野間の 大けやき

昭和二十三年一月十四日 文化財保護法により指定

この大けやきを中心とする一画の地は、もと、「蟻無宮」という神社の境内で、この樹はその神の憑り代、すなわち御神体ともいふべき神木であったと思われる。樹齢千年以上と推定されるこの樹は、目通りの幹回り約十四メートル、高さ三十メートル、枝張り南北三十八メートル、東西約四十二メートルあり、一樹にしてよく社叢をなし、けやきとして大阪府下で一番、全国的にも第四番目を誇る巨樹である。古来よりこの大けやきにまつわる伝承を探れば、里人らは春さきに出る新芽の出具合によって、この年の豊凶を占ってきたと伝えられている。また、社庭の砂を請い受けて持ち帰り、はたけもの（野菜）や屋内に散布すれば、蟻が退散するといひ、その効験は遠くまで知れわたっていた。おそらく社名蟻無によるものであろう。

さらに一説では、有無社は紀貫之を祭神としており、貫之が同じく三十六歌仙の一人である源公忠に贈った歌により社名を付したという。すなわち

『手にむすぶ水にやとれる月影の
あるかなさかの世にこそありけれ』

又経房遺書（安徳天皇ご潜幸の伝承）の一節に「河合にいとほきなる沢ありて水よどめり、さハの中じまに市女が笠てふものに似たるいとうるはしき木の紅葉せしあり」と（原文）、奥書は、「建保五丑年」とあり、なにか大けやきを連想させるものがある。

当社の創祀は、承久二年三月十五日とあり、遠く鎌倉時代にさか上るが、明治四十五年当社祭神は野間神社に合祀された。以後、神木の保全・境内の清浄化に蟻無会（前身は蟻無講中）をはじめ、郷民こそって奉仕してきたところである。とくに最近樹勢回復のため治療を施し、ようやく往時の姿にふみがえろうとしている。

蟻無神社御守護之攸
東御村野間稲地
蟻無神社
蟻除御砂
蟻無神社
大仲賀集宮

蟻無神社の御砂と御砂置など

20210405黒川桜の森

(観察写真記録: 福島、石川浩、田中)

ウワミズザクラ



キラソウ



ウリハダカエデ芽吹き



カリガネソウ芽吹き…匂いがキツイ。円内は去年の果実の残り



コマユミ…去年の果実の残滓あり



ハナйкаダ雄木の花芽



ヤブサンザシ…雌花(柱頭2裂、退化雄しべ5個)



ハナйкаダ雌木の花芽



ギンレイカ芽生え



ミカエリソウ芽吹きと昨年の果実(右)



エンレイソウ



カナクギノキ雄花



ニガイチゴ



シロダモ新芽



ツリバナ花芽



ウリハダカエデ雄花(下垂)⇔雌花は上向き





キブシ雌花



キブシ雄花



アワブキ新葉



タムシバ



トウダイグサ



ウリカエデ雄花



ハクサンハタザオ



台場クヌギ



ネコノメソウ(対生)⇔ヤマネコノメソウは互生



ヤブタビラコ



ウワミズザクラ



ニオイタチツボスミレ…花の中心が白く抜ける、花柄に毛がある、よい香りがある



クロモジ雌花



カナクギノキ雌花



ソクズ



ヤマコウバシ



野間の大ケヤキ…幹回り14m、「ありなし」の由来、蟻無神社(境内の砂を撒くと蟻来ず)、紀貫之の歌



ショウジョウバカマ



カキドオシ



ノジスミレ(田中さん撮影)…側弁に毛無し⇔スミレは毛有り



ヒメハギ(田中さん撮影)





ヤナギザクラ(田中さん撮影)…葉の先の方に鋸歯がある⇔リキュウバイは鋸歯が無いか僅か



日本一の里山 遠景



黒川桜の森 遠景



以上